おおはる

平成29年11月20日

大原小学校校長室

文責　千々和　道隆

平成29年度　全国学力･学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成２９年４月１８日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

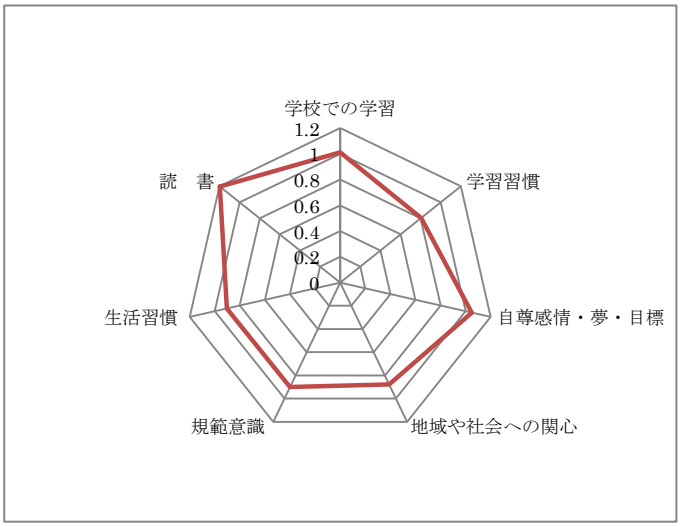
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語Ａ	・全体的にやや下回っているが、漢字の読み書きについては全国平均を上回っていた。 ・「書くこと」に関する問題に課題があり、書くことの指導に重点的に取り組む必要がある。	下回っている
国語Ｂ	・全体的に全国平均を下回っているが、「読む」問題については全国平均を上回っている。 ・目的や意図に応じ適切な言葉遣いで話すことなど、話す・聞く力や書く力について課題があり、日常的な指導の必要がある。	下回っている
算数Ａ	・全体的に全国平均をやや下回っているが、数と計算、図形、数量関係領域については全国平均と同程度であった。 ・量と測定領域の問題に課題があり、算数的な活動を通して理解を深める指導を充実させる必要がある。	下回っている
算数Ｂ	・全体的に全国平均を下回っているが、無回答率は低く、記述式の問題に対する正答率は全国平均と同程度であった。 ・量と測定領域の問題に課題があり、算数的な活動を通して理解を深める指導を充実させる必要がある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・家庭での学習習慣については依然として課題といえるが、自身で学習計画を立てることや学習時間の確保については上昇傾向が見られる。 ・10 分間読書の継続的な取組により、読書が好きな児童が急増した。 ・睡眠時間が不安定な児童や、テレビゲーム等の時間が 1 時間以上の児童が増加傾向にあり、大きな課題となっている。 ・将来の夢や目標をもつ児童や、人の役に立ちたいという児童が増加傾向にある。今後はこの実現に向け、実際の行動に結び付けていくことが重要である。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

○　これまでの取組の継続

本校は、様々な取組（給食時間の補充学習・ノート見本掲示・校内漢字検定・ＭＩＭの取組・家庭学習チャレンジハンドブック活用）を行っているため、少しずつ成果として表れているものと考える。この取組を継続して行い、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図っていく。

○　教科の取組

・国語科の授業において、学力向上推進員と連携した「書くこと」の指導の充実を図ることで手順等を明確化し、各学年で書く活動を習慣化する。

・算数科の授業において、数量や図形の意味などを実感をもってとらえることができるよう、算数的活動の充実を図る。また、話し合う活動を行い、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。

・給食準備時間の「きらきら教室」や「少人数学習」により、個に応じた指導の充実を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○　家庭学習（自主学習）の充実

学校の授業以外に勉強している時間が増えてきたが、二極化しており、宿題を行うだけにとどまっている児童も多い。３年生以上の全児童に自学ノートを配布しているので、家庭学習チャレンジハンドブックを活用しながら、自分で計画して学習に取り組むことができるようになっている。宿題の内容を見直し、自学の力を高めていくために、継続して自主学習の取り組みを推進し、保護者への啓発活動を行っていく。

・児童が自主的・計画的に学習できるよう、学年に応じて家庭学習チャレンジハンドブックの活用を図る。

・学校便りや学年通信及び学級懇願会等、機会があるごとにゲーム等の時間の増加について周知を図るとともに、ＰＴＡと連携した取組を行い、家庭における時間の使い方について保護者への啓発を充実させる。